

授業科目名・形態	介護実習 I	実習	必修・選択の別	選択
担当者氏名	工藤久・柴田博・石岡和志・関口麗子	開講期	2年前期	単位数 3

【授業の主題】

個々の生活リズムや個性を理解するという観点からさまざまな生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護支援技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じて、チームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

介護実習 I では、利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解できるよう、利用者の生活の場として小規模多機能型居宅事業、認知症対応型共同生活介護事業等、居宅サービスを含んださまざまな介護現場での実習とする。

また、巡回指導では人間関係を形成しながら慣れ親しんだ伝統や文化のある地域社会で暮らす高齢者や障害のある人が、施設等の利用に際しても、その人らしさを維持しながら生活する状況について理解し、その生活を継続させるためには何が必要なのかという個別ケアの実践の重要性に気づけるよう指導する。

【到達目標】

- 1) 施設の運営や施設福祉と在宅福祉の連携について理解する。
- 2) 講義・演習・学内学習で学んだ知識に基づき、利用者との人間的な関わりあいを深め、利用者が求めている介護ニーズに関する理解力、判断力を養う。
- 3) 日常生活援助に関する生活支援技術能力を養うことである。

【授業計画・内容】

- 1 施設・在宅福祉の機能と介護福祉士の役割を理解する。
 - 1) 施設や組織の全体的な仕組みや業務の流れを理解する。
 - 2) 介護業務の全体像を理解する。
 - 3) 施設の在宅支援について理解する。
- 2 個別介護過程展開の実際を学ぶ。
 - 1) 挨拶など実習生としての基本的な所作を確立する。
 - 2) 利用者や職員とのコミュニケーションを図る。
 - 3) 記録すべき事柄について考察を加えて記録する方法を学ぶ。
- 3 生活支援技術を習得する
 - 1) 日常生活における基本的な生活支援技術を学ぶ。
 - 2) 利用者の障害や疾病について、必要な知識を身につける。

【授業実施方法】

実習形式で行う。

【授業準備】

通所介護や認知症グループホームなどの在宅サービスについて論文や雑誌などで、できるだけ現状を把握するよう心がける。

【関連する主な科目】 介護の基本、介護総合演習、介護過程

【教科書等】

介護実習指導要領介護福祉士養成講座編集委員会編『第 10 巻介護総合演習・介護実習第 2 版』 中央法規出版

【参考文献】

泉順, 介護実習への挑戦, ミネルヴァ書房

【成績評価方法】

実習記録 50%、実習内容 50%とし総合的に評価する。

【学生へのメッセージ】

実習開始以前に基本的な社会性を身につけ、生活リズムを調整し、明確な目的意識を持ってください。